

日本分析化学専門学校 議事録

令和4年度 学校関係者評価委員会

1 - 8 頁

日 時	令和4年6月21日（火） 15:00 ~ 17:00													
出席者	欠	出	出	欠	出	出					校内関係者（事務局）			
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎					重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	溝田 美和
No.	項 目		審 議 経 過								担当	期限		
1	開会		事務局より開会の挨拶がなされ、令和4年度 本校 学校関係者評価委員会が開会した。											
2	委員紹介		事務局より、本委員会の委員の紹介がなされた。 →資料・令和4年度「学校関係者評価委員会」委員リスト ・梅川雅章 委員（分野団体・大阪府職業能力開発協会 技能検定課長補佐） ・内田 敬 委員（就職先企業・交洋ファインケミカル株式会社 総務部次長） ・大原一浩 委員（高等学校・大阪府立成美高等学校 教諭） ・藤戸郁子 委員（保護者） ・長田芽生 委員（卒業生・東洋サクセス株式会社） ・石田喜一郎 委員（校長指名・大研科学産業株式会社 営業部副部長）											
3	校長挨拶		重里校長より、委員会開催にあたり以下の挨拶および学校の現状報告があった。 →資料・本校の概要と近況のご報告 ・コロナ禍に打ち勝つ先進新教育のご紹介 ・日本分析化学専門学校 3つのポリシー （1）本校の概要と近況報告 ①設置学科について 現状、平日通学学科においては、医療医薬分析学科、健康化学分析学科、生命化学分析学科、環境化学分析学科の4学科を設置しているが、来年4月に先端薬事分析学科を立ち上げる。先端薬事分析学科は漢方やサプリメントに特化した学科である。漢方・サプリア分析コースは漢方・生薬・サプリメントで使用するような様々な物質を分析するコースであり、メディカルインストラクターは薬剤師ではないが医薬品購入時のアドバイザーや薬事情報を提供する人材を育成するコースである。 ②コロナウイルスへの対応 緊急事態宣言が発出された2年前より遠隔事業をいち早く実施し、就職指導や個人面談をWEBで実施する取り組みを行った。文部科学省では本校の取り組みが動画紹介され、広報雑誌にも取り上げられるなどの評価を得た。昨年度はほぼ対面授業を実施し関連分野への就職や資格取得はコロナ前と遜色はなく学校運営ができた。											

<次頁に続く>

日時		令和4年6月21日(火) 15:00 ~ 17:00													
出席者	欠	出	出	欠	出	出						校内関係者(事務局)			
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎						重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	溝田 美和
No.	項目	審 議 経 過											担当	期限	
3	校長挨拶 (前頁の続き)	<p>③令和3年度の振り返り</p> <p>募集面においては、昨年度の入学生152名に対し、今年度は131名であり、21名減少であった。出願結果は個別に事情はあるが、大学の出願減少も顕著であり、不合格者が減少したことが影響したと考えている。今後、現在の大学の出願状況を見る限りにおいて劇的に回帰するとは考えられず、コロナの状況や少子化のことを考えるとこの傾向は続くと思われるので、大学併願層ではなく、専門学校を志す母体をどうやって増やすかが大きな課題である。</p> <p>学校のことをどういったルートで知ったのかといった調査では、本校の場合は高校の先生からの紹介が14.3%、親や家族からの紹介は22%で合計36%となり、全体の約1/3以上の入学生がそれらの紹介であり、全国平均から見ても口コミ多い。広報上で本校を知ったというよりも教育成果を評価いただいたからこそその結果であり、今後も継続した教育活動をしていきたい。</p> <p>④3つのポリシー、到達目標について</p> <p>専門学校では3つのポリシーの公開を義務づけられていないが、大学は設定・公表は法的な義務となっている。本校としては入学対象者に3つのポリシーを示すことは、責務であると考え公表をしている。入口の部分だけでなく、出口として結果がどうなったかということも一昨年度より公表している。</p> <p>文科省の学校基本調査における大学の化学3系統の分野と比較した場合、大学は大学院進学率が49.6%と多く、正社員としての就職率43.1%である。就職している人が極端に少なく、産業構造と高等教育の考え方と一致していない。それを基準として考えると、本校は技術職には100%就いており、誇るべき数字であると自負している。到達目標の結果として資格取得において危険物取扱責任者は減少したが、化学分析技能士3級については受検率が91.7%、合格率が77.4%と向上している。</p> <p>⑤中途退学について</p> <p>中途退学は3.7%、実数でいうと11名であった。近年でいうと最も悪い数字であったが、大学・専修学校等一般的には7%がラインと言われるので、それと比較する少なく留められている。</p> <p>⑥新しい取り組み</p> <p>昨年度より電子黒板、全館Wi-Fi設置といった教育のICT化を行なった。大阪府立高校の生徒は昨年秋よりタブレットを一人1台持つことが実現している。完成年度でみると、あと2年で府立高校生は全員がタブレットでの授業を経験し、そういう生徒が入学するので、本校もいち早く対応すべく取り組んでいる。</p>													

日時		令和4年6月21日（火） 15:00 ~ 17:00													
出席者	欠	出	出	欠	出	出						校内関係者（事務局）			
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎						重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	溝田 美和
No.	項目	審議経過											担当	期限	
3	校長挨拶 (前ページの続き)	<p>また、教育の見える化というのは、本校における3つのポリシーの公表が何よりであるが、昨年の入学時点から卒業して就職1年後までの合計3年間の成長記録を「密着2600時間」と題し、撮影を行い公開する取り組みをしている。現状は1年間分を取り終え、YouTubeで5本の動画を公開している。これこそが究極の情報公開ではないかと考える。こういった取り組みが成立し、学生が撮影することにNOと言わない関係性も感じてもらいたい。</p> <p>さらに現在、対面授業を行っているが、緊急事態宣言が出るかもしれないということに備えなくてはいけない。その中で難しいのは実験・実習をどうするかということである。一般的にはe-ラーニング、動画といった手法があるが、本校ではVRでできないかと文部科学省から予算を獲得し、チャレンジをしている。試用版は準備ができたので、先月学生と教員が実証講座を行った。VRゴーグルに酔ってしまうなど課題はあるが追究したい。</p>													
4	委員会の位置づけと目的	<p>事務局より、本委員会の位置づけと目的に関して、以下の説明があった。</p> <p>→資料・「職業実践専門課程」の文部科学大臣認定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省 専門実践教育訓練給付制度 ・職業実践専門課程制度と本校学科との関係 ・先端薬事分析学科パンフレット <p>平成29年より職業実践専門課程の認定制度ができ、要件として修業年限2年以上、企業等と連携を取り教育課程委員会を年2回開催、企業等と連携して実験・実習を行う、企業等と連携し教員に対し実務に関する研修を組織的に実施し、学校関係者委員会を年1回開催し情報公開を行うことなどがある。</p> <p>現在、東京都の専門学校数が1番多く、次に多いのは大阪であるが、認定率で見ると大阪府が多い。認定されることにより、その学科は専門実践教育訓練給付金の対象となる。働いたことのある人がハローワークに申請をするものだが、現在1年生6名、2年生6名の合計12名が利用している。</p> <p>本校の職業実践専門課程を学科別の変遷について説明。特に、次年度からは先端薬事分析学科を設置する。募集については、この4月より開始した。</p>													

日時		令和4年6月21日（火） 15:00 ~ 17:00													
出席者	欠	出	出	欠	出	出						校内関係者（事務局）			
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎						重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	溝田 美和
No.	項目	審 議 経 過											担当	期限	
5	本校の自己評価の報告	<p>事務局より、自己評価 学校関係者評価規程の説明を実施した。 →資料・日本分析化学専門学校 自己評価 学校関係者評価に関する実施規程</p> <p>内田委員長より指名を受け、事務局より、専門学校の評価は外部のアンケート等も参考に教職員による評価(自己評価)をPDCAサイクルに基づき実施し、学校自らが選任した学校関係者（業界団体・企業・高等学校・保護者など）による委員会が自己評価の結果について評価を行う（学校関係者評価）ものであること。また、学校関係者は教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、今後の学校運営の改善のための助言等を行い、この評価結果をとりまとめ公表するとともに一定レベルを担保していくものであることを説明した。また、校長より、このような主旨を理解の上、本委員会では教職員による自己評価について、厳しい視点で忌憚のない意見を求めたいということ。また、この評価項目は文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき策定しているという前提を説明した上で、令和3年度自己評価結果報告書の各項目について、事務局から昨年度との変化を中心に詳細な説明を行った。</p> <p>→資料・令和3年度 自己評価報告書 ・令和3年度 学校関係者評価委員会議事録</p> <p>(1) 令和3年度の重点目標 1. 本校が設定する3つのポリシーの学外周知と到達目標の達成 2. 授業や管理面におけるICT化への対応準備 3. 新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底と適切な学校運営</p> <p>(2) 向上したもの ①関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保できているか ②就職率の向上が図られているか ③資格取得率の向上が図られているか ④学生の生活環境への支援は行われているか ⑤保護者と適切に連携しているか ⑥高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行なわれているか</p> <p>(3) 低下したもの ①運営組織や意思決定機能は明確化し、効率的なものになっているか ②実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施できているか ③関連分野における実践的な職業教育 ④関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等が行われているか</p> <p style="text-align: center;">＜次頁に続く＞</p>													

日時		令和4年6月21日（火） 15:00 ~ 17:00													
出席者	欠	出	出	欠	出	出						校内関係者（事務局）			
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎						重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	溝田 美和
No.	項目	審 議 経 過											担当	期限	
5	本校の自己評価の報告（前頁の続き）	⑤施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備しているか ⑥学内外の実習施設、インターシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか													
6	自己評価についての意見	<p>各委員から以下のような意見があった。また、評価内容や点数については適当との評価を得て、令和3年度の自己評価については、適切な実施の上での結果であるとの結論となった。</p> <p>①評価項目 1-2 学校の特色として挙げられるものがあるか 【意見】学生と教員の距離が近いという印象がある。採用側の企業としては先生との距離が近くて助かっている。他の企業も同じように感じていると思うので、引き続きお願いしたい。</p> <p>②評価項目 3-3 学校の特色として挙げられるものがあるか 【意見】就職活動の第一歩である企業紹介講座のトップバッターを務めたことは大変光栄なことであった。 学生との濃密な時間であるので引き続きよろしくお願いしたい。</p> <p>③評価項目 3-4 実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施できているか 【意見】電子黒板の使用方法について、どの先生も使用することはできるのか。各教員の裁量にゆだねられ、使うのが難しいように思うが使用できない人はいないのか。 【回答】使用できる。各教室に電子黒板が設置されており、ペンを用いて直接記入することなどができるホワイトボードのような仕様になっている。使用にあたっては、事前に教材を準備する必要がある、使用頻度については個人差がある。実験をする前に行うガイダンスでイラストや動画を映すことができるようになったのは大きなポイントであると感じる。本校としては積極的に使用し、タブレットなどを活用することも課題である。 【意見】公立学校での電子黒板の対応はバラバラである。大きく予算がついた学校もあれば、そういった恩恵にあずかれない学校もあった。ICT化は間違いのないが、国からの予算というよりPTAで何とかして各部屋にプロジェクターを設置した。 こういった取り組みに賛成・反対ということではないが一つの意見として、必ずしも電子黒板を使う授業が良いというものではないという意見を業界内で聞く。最先端技術のいい部分を使うのは大切であるし、なかなか見せることのできなかつた演示を見せることができるのは、黒板だけの授業と比べると良いと思う。注意しないといけないのは、生徒は動画を見慣れており、いつも見ている動画の一つと捉え、珍しいとは感じなくなっている。実際に空き缶を圧力でつぶす <次ページに続く></p>													

日時		令和4年6月21日（火） 15:00 ~ 17:00												
出席者	欠	出	出	欠	出	出					校内関係者（事務局）			
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎					重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	溝田 美和
No.	項目	審 議 経 過										担当	期限	
6	自己評価についての意見（前頁の続き）	<p>実験をしたとき、生徒は大きく反応した。同じ実験を動画で見せても反応は違ったものになるだろう。手間はかかるが目の前でみせることは大切であり、そこに大きな差はあった。日常に見慣れている動画でないリアルに実際にすることが大事である。デジタルツールを使うのは大切であるが、今までの古いといわれるスタイルもそれなりの良さがある。日本分析化学専門学校は実験を中心にリアルに行い、できないものをデジタルで補うのが強みであると思う。動画とリアルの差はこれからも考え追求しないといけないと思う。</p> <p>【回答】本校はあくまで対面授業や実験を前提としているので、こうしたツールはその補完として位置づけている。</p> <p>ただ、ICT化やGIGAスクール構想は、専門学校よりも高校の方が進んでいると認識しているので、高校の動きを見ながら対応したいと考えている。ただ、その備えはしておく必要があると強く認識しているので今後も高校の先生方と情報交換をしていきたい。</p> <p>④評価項目 3-10 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保できているか</p> <p>【意見】学生の就職採用試験において、採用試験の時だけで見極めるのは不可能と考える。履歴書やその中のPRで学生の経歴・エピソードを拾い上げてほしい。面接の口調・顔の輝きを見つけられたいと思っているので頑張ってもらいたい。</p> <p>⑤評価項目 4-3 退学率の低減が図られているか</p> <p>【意見】退学率のデッドラインは7%と聞いたが、金銭的なことが理由で退学をしていないか。</p> <p>【回答】授業料が納付できないことによる退学はなかった。様々な奨学金を借りている学生、修学支援新制度を利用している学生、専門実践教育訓練給付金を利用している学生もおり、アルバイトと併用しているようである。</p> <p>本校は2年制であるので大学に4年間通うことに比べれば学費は安価であり、2年早く働くことができるという理由で入学する学生もいる。</p> <p>⑥評価項目 5-5 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか</p> <p>【意見】ボランティア、社会貢献活動はどんなことをしているのか。積極的に参加することにより心が磨かれ、充実感・達成感を得られるので面接の武器にしてもらいたい。</p> <p>【回答】ボランティアとしては学校前の南天満公園の清掃や献血活動を公式ボランティア活動として推奨している。</p> <p>特に9年前より始めた献血ボランティアは、コロナ禍により血液が不足していることが学生の参加理由ともなり、動機付けにもなった。団体に献血を行う機会を設けることは価値があるのではないかと考え</p> <p style="text-align: center;">＜次ページに続く＞</p>												

日時		令和4年6月21日（火） 15:00 ~ 17:00										校内関係者（事務局）				
出席者	欠	出	出	欠	出	出						重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	溝田 美和	
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎										
No.	項目	審 議 経 過													担当	期限
6	自己評価についての意見（前頁の続き）	<p>ている。</p> <p>【意見】部活や課外活動、委員会活動をしていない学生はいるのか。仕事をするにおいて分析の知識だけでなく、人とのコミュニケーション能力が大切である。先輩から教わるなどを通して、上下関係などを身に付けてほしいので、全員が何かしらの活動に参加した方が良いと思う。</p> <p>【回答】本校の課外活動は自治会等の委員会活動、選挙管理委員や分化祭実行委員など行事における活動、スポーツ系のクラブ活動があり、何かしらに所属している学生は全体の7割程度である。こういった活動に所属することを強制ではないが推奨している。しかし、一定程度の学生は何にも所属していないのが現状である。理由としては積極的になれない学生や、時間的制約をうけることでアルバイトなどに影響がでると考える学生がいる。3つのポリシーにあるが、評価項目、目標設定でも実務・実践力を養うことは大切であることは理解しているので、改めて啓発していきたい。</p> <p>【意見】コロナ禍におけるクラブ活動はどうだったか。</p> <p>【回答】コロナだから活動できないということではなく、感染に気を付けて活動をしていた。例えば感染拡大している時期は、道頓堀の水質調査でいうとサンプリングの自粛、スポーツ系のクラブに関しては試合がないということがあった。スポーツをすることを敬遠する傾向はあったが、反対に委員会活動をする学生は増えたので分配は変わったが参加率は同等であった。</p> <p>⑦評価項目 5-6 学生の生活環境への支援は行なわれているか</p> <p>【意見】公立学校においては、学生の気質が変わったといえるレベル以上のことが起こっている。高等学校と専門学校という違いはあるが、コロナという大波を最低限に食い止められたことは評価すべきところである。今後もコロナによる影響は、こういった形で現れるかわからないのでお互い共有しながら対処して進めていきたい。</p> <p>【意見】消費者生活センターの説明会はイントロダクションとして良いと思う。キャッシングやネット犯罪などの予防に金融広報中央委員会の「知るぽると」というサイトがよい。無料のものもあるので学生に啓蒙してもらいたい。</p> <p>⑧評価項目 6-1 施設・設備は、教育上の必要性に充分対応できるよう整備しているか</p> <p>【意見】実験室機器設備、試薬の管理における遅滞については、卒業研究の開始が遅れたなどのことが推察されるが、メンテナンスは教員が行っているのか。教員が行っているのであれば、時間が取りにくいことが原因ではないか。一案として、一定期間、例えば5年使用していない薬品は、お金もかかるが廃棄することが棚卸を有効に行う手段ではないか。</p> <p style="text-align: center;"><次ページに続く></p>														

日時		令和4年6月21日（火） 15:00 ~ 17:00													
出席者	欠	出	出	欠	出	出						校内関係者（事務局）			
	梅川 雅章	内田 敬	大原 一浩	藤戸 郁子	長田 芽生	石田 喜一郎						重里 徳太	尾崎 信源	渡邊 快記	溝田 美和
No.	項目	審 議 経 過												担当	期限
6	自己評価についての 意見（前頁の続き）	<p>【回答】機器については年2回のメンテナンス確認、試薬の確認は教員によって実施している。実情として全試薬の棚卸しはできていない。毎年行う授業で使用する試薬は決まっており、把握はできている。卒業研究は後期授業科目であるが、卒業研究に使用する試薬の購入については、前期にテーマ・方法を検討し準備を行う。校内に在庫のあるもの等、一つ一つ確認をし、必要量に応じて購入をするが、前提として棚卸ができていないと実現できるものではない。そこに滞りがあり、卒業研究の試薬購入が遅れた。</p> <p>また、本校のシステムとして前期に使用するものは前期に、後期に使用するものは後期に使用する仕組みである。多少なりとも処分もしているが、システムとしてはできてはいないが継続して検討を続けていく。</p>													
7	閉会	事務局より閉会を宣言し終了した。												以上	